

令和 8 年度第 1 回大磯町スポーツ健康会議会議録

- 日時 令和 8 年 7 月 23 日（木） 19:00～20:40
- 場所 大磯町保健センター 2 階研修室
- 出席者 会長、副会長ほか 8 名
- 事務局 町民福祉部長、スポーツ健康課長、スポーツ健康課職員
- 傍聴者 1 名

●会長・副会長の選任

（事務局提案により、会長・副会長選出）

会長：北岡委員、副会長：加藤委員

●議題 （1）第 2 期けんこうプラン大磯令和 7 年度進行管理書（案）について

○意見及び質疑

委員： 71 ページの C 評価になっている「一般介護予防事業」だが、目標値が毎年変わっている。例えば、令和 5 年度は、目標値が 12 団体で、そのうち実施できたのは 4 団体、令和 6 年度は目標値が 4 団体になっており、開催したのが 9 団体なので A 評価となっている。そのため、令和 7 年度は 16 団体が目標になった。そして、実際の開催が 12 団体というところで、実際には、令和 6 年度より令和 7 年度の方が、開催している団体が多くなっていたが、目標値を少し高く設定してしまったために、評価としては C 評価というところになる。母数は増えているという理解でよろしいか。

事務局： そのとおりである。母数は増えている。

担当課としては、令和 6 年度で A 評価という形になったので、令和 7 年度もそれより増やしたいという思いで 16 団体という目標設定をしたが、実際の結果が 12 団体となった。実際には、令和 6 年度より令和 7 年度の方が開催している団体が多くなったが、目標値を少し高く設定してしまったため、評価としては C 評価となってしまった。

委員： 令和 5 年度から 4 団体、9 団体、12 団体と経年で見ると開催している団体は増えている。評価として、何かできないかと思う。

基本的には、この目標に合わせた評価になっているというのであれば、この部分だけ変えるわけにはいかないものの、例えば、71 ページで説明をされた「休養・こころの健康づくり」の部分では目標を上げたことによって、実質 C 評価になっているが、経年的に見ると実施団体は増えているという一文を、説明のところに加えていただいたりすると良い。せっかく実施している団体もあるので、ご検討いただきたい。

事務局： 成果・総評の部分に開催団体が増えている旨の記載をしていきたい。

委員： 事業番号 18 番の「親子収穫体験」についてお伺いしたい。さつまいもの収穫体験を年に 1 回もしくは 2 回、周知して実施していると思うが、天候不良で中止となっている。他の作物などで代替できないか。

事務局： さつまいもは、他の作物に比べ育てやすく、雨風にも強い。そういう意味では、あまり手がかかりにくい作物なので、収穫体験をやりやすいのではないかと考えている。担当課には、今回の会議で出たご意見としてフィードバックしていきたい。

委員： 事業番号 21 番の「釣り体験教室」もこの 2 年間実施できていない。事業として、再検討してはどうか。

事務局： 「釣り体験教室」については、令和 7 年度は 10 月に親子釣り入門教室という事業を実施しようとした。広報で募集はしたが、こちらも記載のとおり荒天のため、実施ができなかった。

自然を相手にする事業なので、どうしても天候により開催が左右されてしまう。

委員： 予備日を設けるということは難しいか。

事務局： 講師との日程調整や参加者への連絡体制などが課題となってくる。併せて担当課に伝えていきたい。

委員： 大磯町として、こういう目標に対して教育的にこういうふうに関わっていくとか、自然のことを子どもたちも含めて分かってもらいたいというような思いがあるのであれば、「1 回目は中止になったが、2 回目あります。」とか、最初の計画から考えていくことはできるか。

事務局： スポーツ健康課でも屋外で実施する事業もあるので、担当課には、ご意見があった旨をお伝えしたい。

委員： 計画の進行管理は、5 年間、10 年間で行っているので、目標はどんどん変わってくる。そのためにこの進行管理があるので、途中で状況が変わったら、目標値は変えていいと思う。

委員： 「普及啓発活動を行った。」という文言が多く書いてあるが、そもそも、どのよう

な普及啓発活動をしたのかという内容が知りたい。例えば、71 ページの「こころの健康セミナー」のところで「引き続き周知啓発を行う」とあるが、どのような周知を行っているのか、また、どのような啓発を行っているのか。

事務局： 「こころの健康セミナー」の参加者を増加させるため、周知方法を検討すると記載しており、町の公式 LINE で登録いただいた方にこのセミナーがあることお伝えしたり、SNS を使った周知を行っている。

委員： 今、お答えいただいたように、例えば「SNS などを活用した周知を行っていく」とか具体的に記載をしても良いのではないかな。予定調和的に書かれていると、わかりにくい部分がある。もう少し具体的に記載していただくとわかりやすい。

委員： 受診勧奨の部分も、どのように受診勧奨を行うのかというところがわからない。

会長： 委員の方に、周知方法として良いアイデアがあればいただきたい。

委員： 受診勧奨でいうと、町ホームページ、広報、受診勧奨のはがきなどがある。

委員： 小中学校へのポスターなども周知方法としてある。

委員： LINE や SNS は、対象者に対して出すものか。

事務局： LINE については、対象者ではなく、登録していただいた方に対して、セミナーなどのお知らせをする。そういう意味では、受診勧奨などは難しい。

委員： 目的を果たしていく時に、情報を発信して、参加者が来る。一定数来て、目標値をクリアして A 評価になるという流れだが、「無関心層」をどうするか。

ただ、「無関心層」という言葉で、来ない方々をひとくくりに表現してしまうところがやっぱりある。次の質問ともリンクするが、まず「無関心層」という方をどう定義するか、これからの時代は、大事になってくる。一昔前より無関心層という言葉が使われにくくはなったと思う。その市町村とかその事業に対して、「無関心」というのは何か。

例えば、健康診断であれば、全く受けない方は「無関心層」で良いと思う。朝食に関して言えば、様々な事情で食べないとか、工夫して昼夜に食べているという方もいると思う。食べないといけないというのはわかっているけども、やっていない方と分けていかなければならないと考える。

では、事業をどう広げていくかと言ったときに、クチコミで来てくれるという方たちをしっかりと作る。クチコミで誰かの紹介で来てくれたりすることが一番参加率が上がると言われているので、クチコミで来た人をちゃんと増やす。周知活動というのは、成果が出にくいので一番難しいと思う。この事業が良かったから、来年も行きたいとなるような事業をしっかりと積み上げていけば、例えば、「一般介護予防事業」みたいな形で、今年よりも来年、来年よりも再来年という形で増えていくのかなと思う。去年も参加した、2年連続の参加者など継続して参加したかなど新しい指標や観点にしても良いと思う。

例えば、「こころの健康セミナー」も3年間実施しているが、毎回、先生が同じであれば、違う方に受けていただいた方が普及啓発になるし、一方で、その講座に継続して参加する方もいると思う。普及啓発していくということで同じ内容を行っているのであれば、違う方にどんどん受けていただきたいし、内容を変えて開催しているのであれば、人数が増えていくというのは良い評価になるかなと思う。

委員： 確かに同じ人数でも見方によって違ってくる。同じ人が何度もリピートするのは、良くないのではないかとということもある。ただ、一度参加した方が誰かを誘うことも、同じ人が何度も来ても、それは意味がある評価になる。

目に見える数値だけ評価をしていくと、例えば大磯町の場合は、一回の母数がそんなに多くないので、少しの人数で、実施率がガクッと下がったりする。数値も大事だが、中身・質を分析して、数値の方はこうだけど、内容的にはこうだったというところが評価できると、一生懸命取り組んでいる事業担当の励みにもなるし、より深く考えていけると思う。町全体で考えていただく方が良いと思う。

会長： それでは、74 ページから 79 ページまでの御意見を伺いたい。

委員： 74 ページの歯と口腔の健康だが、傾向と課題のところで「歯科健康診査については令和6年度より受診者が増加傾向にある」ということで、あとは、83 ページの「成人歯科健診の40歳代の歯周病率が低下（改善）している」という結果が出ている。令和6年度から受診率が増加したのは何か工夫などがあったのか。

事務局： 例年通り、対象の方に対して成人歯科健診のご案内のハガキをお送りしている。他の健診と比べると、その分、少し増えている可能性はある。

委員： 意識が高い方が受診されたという面もあるかもしれないが、歯科健康診査の受診率が低いというのはどこの自治体でも抱えている課題でもあるので、何かここで工夫があったのかと思い、質問した。

委員： 歯の健康フェスタという事業をここ数年、二宮町のラディアンで実施している。平塚市でも同じような事業を行っているが、大磯町民の方の参加が少ない。コロナ前は、大磯町でも保健センターを使って行っていたが、何か施設が使えない事情などはあるか。

事務局： ここ数年は、二宮町と合同で実施している。来年度以降、二宮町のラディアンが使用できないという話も聞いている。今後、二宮町と検討して決めていきたい。

委員： 76 ページの事業番号 50 番の「不育症治療費助成事業」では、令和 5・6 年度は、E 評価となっており、令和 7 年度は、目標が変わり、広報で周知して A 評価としている。目標や評価を見直しても良いのではないか。制度を知ってもらいたいというところはあるが、広報に 1 回掲載して、A 評価というのは難しい。例えば、産婦人科に協力してもらい、リーフレットなどを渡してもらうなどを行ってはどうか。行政としてアプローチしにくい世代とは感じるが、工夫してやっていただきたい。

事務局： 担当課には、広報だけではなく、他の周知方法を検討するなど伝えていく。

会長： それでは、80 ページから 82 ページの基本目標 3 「生活の質の向上」についての質問・意見を伺いたい。

委員： 80 ページの事業番号 98 番の「地域のつながり事業」では、C 評価となっているが、地域ケア庁内連絡会の回数が増えており、経年的に見ると、目標に近づいてきている。少し丁寧に見てもらおうと担当としても評価されているとなるのではないか。

事務局： 承知した。

委員： 体を動かしたい方が増えている。年間で 2,000 人くらいの方に御参加いただいている。ただ、会として、若い方が来て、ボランティアになり得ないというところが大きな課題となっている。

委員： 昔は、携帯電話がなかったので、参加者の方も多かったが、今は、携帯電話で調べられるので、参加者が少なくなっている。呼びかけをしないと参加者が増えないので、何か対策をしていく必要があると考えている。

委員： 興味がないと情報を取らない。町の LINE に登録しているが、情報が来ても、興味がなくなかなか参加には至らない。興味があったとしても、その日は予定があつて

行けなかったりする。子どもがいれば、それだけで行く動機になる。あとはステップが少ないほど参加しやすい。

会長： それでは、全体としていくつか御意見があったので、各担当に御意見をお伝えいただきたい。また、事務局の方で、今日のデータを少し修正して、全体としてはこの方向性で進めていくということよろしいか。

(委員承認)

●議題 (2) 次期計画策定に向けた「健康づくりに関する町民意識調査」について
意見・質問については、事務局で作成する意見記入用紙に記入の上、7月31日(金)までに提出。

○確認事項等

委員： 今回のアンケートは、郵送で行うのか。若い方は特にQRコードを送って、電子で回答してもらった方が集計もしやすい。

事務局： QRコードを送って回答してもらうという形も検討したが、実際に渡して回答してもらう方法と電子で回答してもらう方法で比較すると、実際に渡した方法の方が回収率が高いというデータがある。

委員： 小学生もタブレットを持っている時代なので、電子で回答してもらう方法でも良いと思う。

委員： 他自治体で、5歳児の保護者向けにアンケートをやっていて、昨年度、電子にしたら回答率がかなり下がった。それまでは、配布・回収を幼稚園の先生が管理していたが、電子にしたために下がってしまった。中高生は電子でも良いかもしれないが、一般成人は紙の方が答えやすいのではないか。また、他自治体で、紙と電子のハイブリッドで実施したが、2重に回答してしまう方もいた。調査の質を考えると検討が必要である。

委員： 配布・回収方法については、相談しながら進めていただきたい。

委員： アンケートをすることによって、自分の健康に対する意識を自覚することがあると思うが、アンケートで書かれていることで「こういうことを町がやっていますよ。」というところまでわかると、それは啓発活動になるのではないか。アンケートをやっ

た方が広報などを見て参加しようと思うのではないか。一番効果的なのは、人が多いところにやっていることを伝えることであると思う。直接的ではないが、クラブ活動や教室などの参加率も上がるのではないか。

また、アンケートをやった結果というのは、自分ではわからないので、こういうところにつながっているということがわかるようなアンケートにすると良いのではないかと思う。

●議題 （３）その他
（特になし）

閉会